

親子水泳教室

7月21日から26日までの6日間、海洋センタープールで親子水泳教室が開かれました。

最初は、顔にちょっと水がかかっただけで泣きだしてしまう子もいましたが、最終日には元気なチビッコ河童に変身していました。



これはビツクリ

ジヤンボひょうたん

このジヤンボひょうたんは、東町の布施岩雄さんが栗山の土地に作ったもので、太い部

分の周囲は77cm位まで育っています。東京の知り合いから手にいれた種子を3月ごろ蒔いて、何も手をかけずにいたそうですが、6月7月ごろ最初の花が咲いたときに花合わせをしてあげば、周囲1m位まで育ったのではということでした。

来年作ってみたい方には、11月ごろ無償で種子を譲ってくださいるそうですから、みなさんも挑戦してみてもいいですよ。

俳壇



しんしんと妹の星あり夜の秋

海保 きみ

階級章泣きく、焼きし終戦日

鈴木 草庵

才なきを日記に残す夜の秋

鈴木 南知

秋の夜人生観を更えもして

津田 若菜

天瓜粉くびれが区切る嬰の肌

成田栄三郎

佐原囃子浴衣一枚山車さばき

行方はじめ

夜の秋やひやりとかける老眼鏡

藤代 ゆう

口染めて桑の実の友夢ん中

山口 一秋

穂孕みの止め葉を見せて青田風

若梅あやめ

夜の秋や曇んで小さき下着類

宇井 芝童

庭石の昏れても冷めず百日紅

(選者)土屋 栗水

私のひとこと



私が横芝町に嫁いできて3年になります。昨年の4月には私も母親になり、子育ての難しさを痛感し、子供に振り回される忙しい日々を送っています。

我が家にとって四十年ぶりの女の子とあって、家族みんながかわいがつてくれ、みんなに見守られてすくすくと成長しています。女の子でありながら、生傷の絶えない、とても元気なやんちゃ娘で、時にはとてもひょうきんな面を

子を持って知る親の心

永 藤 千恵子(小堤)

持ち、時には親が顔負けの行動をとったり、子供の成長ぶりには目をみはるばかりです。

が身にしみ、感謝の気持ちでいっぱいです。

我が家は、主人の父母、祖父母、弟、娘、そして私たちと、四代が同居していますので大変にぎやかです。娘に愛情をそそぐとともに、家族へのいたわりの心と感謝の気持ちを忘れずに、家の中に笑いの絶えることのないよう、私ながら努力していこうと思えます。

これからがもっと楽しみな娘には、素直で、あいさつの出来る子になって欲しいと願っています。

「子を持って、初めて親のありがたさがわかる」ということわざのとおり、親の苦労

